

ユニットコンピテンス		卒業コンピテンスに対する達成レベル (公衆衛生学)
Ⅲ. 医学および関連領域の知識と応用		
千葉大学医学部学生は、卒業時に 医学・医療の基盤となっている以下の基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、応用できる。		
4	病因と病態 1. 健康における格差などの社会的要因を説明できる。 2. 感染の3因子とその対策について説明できる。	D
6 7	治療、予防 疫学、統計 3. 予防医学の概念とその実践について説明できる。 4. 歴史的疫学研究について説明できる。 5. 疫学研究のデザインとその特徴について説明できる。 6. 有病率、罹患率、リスク比、オッズ比、リスク割合等の疫学指標について説明できる。 7. 年齢調整死亡率について説明できる。 8. 感染症の予防について説明できる。	F / D
8	保健・医療・福祉制度 9. チーム医療、健康増進施策の推進における行政、病院などの専門職による協働の必要性を理解する。10. 食品保健について説明できる。 10. 地域がん登録について説明することができる。 11. 厚生労働省、都道府県、市町村における公衆衛生の仕組み、地域保健法について説明する事ができる。 12. わが国の国際保健への取り組みについて説明する事ができる。 13. 高齢者や障害児(者)に関する福祉および高齢者医療について説明する事ができる。 14. 介護予防、在宅介護、施設介護について説明できる。 15. 母子保健、学校保健について説明できる。	D
Ⅳ. 診療の実践		
千葉大学医学部学生は、卒業時に 患者・生活者を尊重し、安全で質の高い診療を実施するために、以下のことが適切に実施できる。		
7	治療計画を提案できる。 16. Evidence-Based Medicine (EBM) について、説明する事ができる。 17. EBMに必要なデジタル情報の集め方を理解する。	F
8	医療文書を作成できる。 18. EBMに必要なデジタル情報の集め方を理解する。	
10	Evidence-based medicine (EBM) を実践できる。	D

基盤となる知識の修得が単位認定の要件である (Basic)

F
/
D

D

基盤となる知識の修得が単位認定の要件である (Basic)

ユニットコンピテンス		卒業コンピテンスに対する達成レベル (公衆衛生学)
	19. Evidence-Based Medicine (EBM) について、説明する事ができる。 20. EBMに必要なデジタル情報の集め方を理解する。	
V. 社会と医療		
千葉大学医学部学生は、卒業時に 個人と社会のつながりを理解し、社会と医療の発展のために、以下のことができる。		
2	保健・医療・福祉に必要な資源を活用し、連携・協働ができる。 21. 健康の定義を説明できる。公衆衛生の課題と今後の展望について述べる事ができる。 22. 厚生労働省、都道府県、市町村における公衆衛生の仕組み、地域保健法について説明する事ができる。 23. 介護保険について説明する事ができる。 24. 高齢者や障害児（者）に関する福祉および高齢者医療について説明する事ができる。 25. 介護予防、在宅介護、施設介護について説明できる。 26. 母子保健、学校保健について説明できる。	D 基盤となる知識の修得が単位認定の要件である (Basic)
3	患者・生活者の疾病予防・健康増進の活動を支援できる。 27. 予防医学の概念とその実践について説明できる。 28. 各疾患の終末期医療、尊厳死、安楽死について説明できる。 29. 厚生労働省、都道府県、市町村における公衆衛生の仕組み、地域保健法について説明する事ができる。 30. 介護保険について説明する事ができる。 31. 公衆衛生に関する法律の種類と概要を理解し、説明できる。 32. チーム医療、健康増進施策の推進における行政、病院などの専門職による協働の必要性を理解する。 33. 高齢者や障害児（者）に関する福祉および高齢者医療について説明する事ができる。 34. 介護予防、在宅介護、施設介護について説明できる。 35. 母子保健、学校保健について説明できる。	
5	個人から地域・国際社会、地球環境に至るまでの保健・医療・福祉の課題を評価できる。36. 各疾患の終末期医療、尊厳死、安楽死について説明できる。 37. 厚生労働省、都道府県、市町村における公衆衛生の仕組み、地域保健法について説明する事ができる。 38. 母子保健、学校保健について説明できる。	